

令和元年度 奈良市の地域教育を考える懇話会の意見の概要	
開催日時	令和 元年 7月18日(木) 13時00分から15時00分まで
開催場所	奈良市教育センター 中講座室
意見等を求める内容等	平成30年度 奈良市地域教育推進事業について 令和元年度 奈良市地域教育推進事業について 今後の奈良市地域教育推進事業について
参加者	出席者 11人 ・ 事務局 15人
開催形態	公開 (傍聴人 0人)
担当課	教育部 地域教育課

### 意見の概要

事務局による概要説明の後、出席者に意見等を求めた。

《意見の概要》

#### 平成30年度 奈良市地域教育推進事業について

##### ▶事業アンケート調査報告

- ・学校と地域が話し合う場が、地域からはほしいという意見が出ている。
- ・この事業の活動がなれ合いになってきているから学校と地域の会話が減っている。
- ・管理職と話す機会が多いが一般の先生とは全く話すことがない＝学校全体と話ができているとはならない。
- ・学校側は、地域が育ってきたから管理職と担当教員だけの対応でうまく機能できていると思っている。
- ・地域担当以外の先生と話す機会はないので、関わっておられない先生がどう思っているのかは知りたいと思っている。コーディネーターが誰なのかかわかってもらいたいと思っている。
- ・話し合いができないことで活動自体に不都合はないが、その他の関わりのない先生はどう思っているのか、どう感じているのかを知りたい。最後にそのしこりだけが残る。
- ・土曜日に開催する会議になると管理職から一般教員に出席してもらおうのがつらいと意見が出る。地域からは平日に開催すると仕事を休んで来てもらうことになる。
- ・若い先生は地域に何をお願いしたいのかわからない。子ども達のためにこんなことを地域に頼んでいいのか？と悩んでいる。
- ・地域の会議は夜の7時から9時。先生は言えば出てくれる。ただ言うのは厳しい。働き方改革もある。目に見えないところで学校をうまく回す歯車のような役目をしているミドルリーダー的な先生に会議に出てもらったりしていると疲弊していく。協議会のことについて初歩的な事も含めて説明、研修もしたいが時間がない。
- ・経年比較をしたらいいと言ったが、この十年アンケートの形はほとんど変わっていない。アンケートの刷新をしてはどうか。先生達との会議の時間がない事実や働き方改革への説明ができない以上、アンケートをこのままとっていても解決策は出ないだろう。

- ・代表コーディネーターの回収率が毎年低いのはおかしい。地域教育事業に対する意思表示ではないのか。調査をする主体者を変えて実態調査をするのもありなのでは。
- ・学校現場が週5日制になって、子ども達は土日に社会教育、地域の人達が支えるみたいになっている。地域の人達も平日は働いているのにと問題も出てきた。
- ・出来ない所、不満を数値化するアンケートではなく、ここを良くしようと思えるものにした。
- ・ただ単に感じていることを数字で上げていくよりも、何のためにしないといけないのか、こうやって話し合ったからできた、というような形のデータが出てきたらいい。

## 令和元年度 奈良市地域教育推進事業について

### ▶第9回「交流の集い」について

- ・いつも答えが一緒になる。だから若い先生の意見、悩みを聞きたい、となった。コーディネーターからの発案。
- ・教育大の学生にとっては学びの場。何を学んでくるのか。現場を見てきてほしい。今時の子どもはダイレクトだから先生になるのをやめようとなるかも。それでもいい。
- ・多様な人が交流するのが重要。アンケートの結果からもわかるように、理解が不十分だという事が多くて、長い経験年数のコーディネーター、管理職、担当教員の限られた人しか答えがわからない。もう少し回答者になる人を広げていかないと答えは変わらないので、交流の集いで若い教員、新しいコーディネーターが参加するのは一つのソリューションだ。
- ・教員の働き方改革について。やらなければいけないことと、誰かに託すことができるものの住み分けは必要。本人のやる気にも答える必要がある。本人の心身の健康のためにも、時間の管理は必要だが、本人のやりたい気持ちにトップの責任と地域の協力で具体的な仕組みを取り入れないと。タイムマネジメントスキルが今後重要になる。

## 今後の奈良市地域教育推進事業について

### ▶コミュニティスクールについて

- ・地域全体で小中一貫教育をするべき。学校運営協議会は地域の意見を吸い上げた上で学校経営方針を決める。今までの支援本部は学校の足らず部分を地域が助けるだったが、協働本部的なものは地域の課題を教育課程に組み込んで子どもたちの学びにつなげていくところが大きな違い。そこがきちんと地域教育協議会の側もわかっていないといけない。奈良は地域側からその土台が育ってきているのでその整理さえできていけばスムーズに動けるはずだ。
- ・学校運営協議会の構成について。中学校区にいくつかの小学校運営協議会があるならば、そこに関わっているメンバーが同時に同じ場で議論すべき。教育に関わる有識者が入るのもいい事だ。
- ・学校運営協議会は学校を一つの経営体だとするのであれば、人・金・モノすべてに対する経営的なアドバイスやサポートができる。学校経営をする上で地域教育協議会に何を頼むべきかを考えられる。地域や学校教育に詳しい外部の人、教育委員会に関わっていない人が教育について意見を言うべきだ。地域教育協議会と学校運営協議会は全く別物と認識すべき。
- ・学校運営協議会はマネジメントについて話す。年3回くらいあるので、一般教員もオブザーブで参加させるべき。コーディネーターも。いろんな連携を見られる。各教員が順番に参加することでどんなマネジメントが行われているのを見るいい機会。

### ▶高度人材育成計画について

- ・資金調達、人、企業開拓等、地域をでた活躍のために我々が持っている研修プログラムを活用し

ていきたい。ミドルリーダー育成、いろいろな立場からコーディネーターのあり方を見る等の研修をする一方で、自分たちの意思で行動できる次世代の教育の担い手の育成のために今後カリキュラムを考えていきたい。

- 意欲のあるコーディネーターのクオリティをあげて自立型になってもらうために地域と行政がリンクした研修を考えていきたい。
- 公民館でも、研修を一緒に受けたり、地域教育についての情報などを共有して発信していきたい。